

北海道 釧路厚岸圏域 総合水産基盤整備事業計画 (R4~R8)

1 圏域の概要

(1) 水産業の概要

①圏域内に位置する市町村および漁業協同組合の概要

当圏域は、北海道太平洋東部海域に位置し、厚岸町を範囲としている。

圏域内には、流通拠点であり全国から利用漁船が集まる厚岸漁港と生産拠点となっている床潭漁港があり、サンマ漁業、イワシ漁業、イカ釣り漁業などの沖合漁業、カレイ、タラ、タコなどを対象とする沿岸漁業、コンブを主とした採藻漁業など様々な漁業が営まれている。

また、道内有数のカキ養殖の産地であり、他にもウニやホタテガイの放流など栽培漁業にも力を入れている。

漁業活動の中心的役割を担っている漁業協同組合は、厚岸漁港区域に所在する「厚岸漁業協同組合」である。

②主要漁業種類、主要魚種の生産量、資源量の状況

当圏域における令和元年度の漁業生産は、17,009トンとなっており、主要漁業種類は、サンマ漁業、イワシ漁業、コンブ漁業で、3魚種の水揚げは圏域内の約70%にあたる11,827トンとなっている。

他にも、カレイ類、タラ類、ニシンなどの魚類、アサリやホッキガイなどの貝類、ケガニやタコ、ウニなど多様な魚種を水揚げしており、養殖カキは全国的にも有名となっている。

主たる魚種であるサンマやコンブは、近年減少傾向であるが、カキやコンブの養殖やウニ、ホタテガイの種苗放流など栽培漁業に精力的に取り組んでいる。

また、近年資源増大傾向にあるマイワシやサバなどは、今後、漁獲量の増加が期待されている。

③水産物の流通・加工の状況

厚岸漁港は、漁港内に産地市場を有しており、コンブ以外はここに集約され、釧路市や札幌市などの道内のみならず、道外にも出荷されている。コンブについては、各漁業者の所有する干場で乾燥させ、整形・梱包された後、札幌方面などに出荷されている。

床潭漁港ではコンブの水揚げが大半を占めており、厚岸漁港と同様に漁業者が所有する干場で乾燥させ、整形・梱包された後、札幌方面などに出荷されている。

④養殖業の状況

圏域内では、カキ、コンブの養殖が行われており、特にカキはブランドカキとして全国的な知名度を誇っており道内外に流通している。

⑤漁業経営体、漁業就業者（組合員等）の状況

圏域内での組合員数は、この5カ年間で5%程度の微減で推移しており、減少傾向ではあるものの急激な減少は見られない状況である。

⑥水産業の発展のための取り組み

水産資源の継続的な利用を図るため、種苗放流（ウニ・ホタテなど）を実施しているほか、底質改

善（雑海藻駆除）を実施し、コンブ漁場の維持・拡大を図っている。

また、カキやコンブの養殖に取り組んでおり、安定した水揚げが可能な体制を構築している。

さらにカキやサンマを中心としたブランド化を行うことで、漁業者の収入の向上を図り、水産業の発展に寄与している。

⑦水産基盤整備に関する課題

産地市場を有する厚岸漁港では、令和2年7月に屋根付き岸壁が完成し、令和2年8月より供用が開始された。今後、ソフト対策を含め衛生管理体制の定着化を進めていく必要がある。

また、度重なる地震等により施設沈下が見られ、津波や高潮により浸水等の被害が発生していることから、漁港施設の防災・減災対策が急務となっている。さらに水域施設で発生する三角波や地域特有の強風により漁船の航行や係留に支障を来しているため、航路整備等による利用時の安全確保が求められている。

床潭漁港については、係留施設が耐震機能を備えていないため、地震や津波などの災害後、速やかな漁業活動再開が困難な状況にある。加えて港内静穏度が非常に低く、荒天時には他港避難や見回り強化などを強いられており、漁業者の負担が大きく高コストの要因となっている。

⑧将来的な漁港機能の集約化

厚岸漁港では、湖南地区に屋根付き岸壁及び荷さばき所が整備され、衛生管理対策を講じた集・出荷機能の集約を図っている。また、防災・減災の観点から岸壁の耐震・耐津波化の整備が進められており、令和2年度に避難機能を有する人工地盤も整備された。

(2) 圏域設定の考え方

①圏域タイプ	流通拠点型	設定理由：産地市場を有する流通拠点漁港である厚岸漁港に水産物が集約され、広く道内外に出荷されている。また、圏域内で生産された養殖カキはブランドカキとして全国に流通している。
②圏域範囲	厚岸町	設定理由：流通拠点である厚岸漁港に厚岸町内の水産物が集約されている。また、カキ養殖が厚岸湾で展開されており、厚岸漁港に陸揚げされている。 ・厚岸漁港：厚岸町沿岸及び沖合海域で漁獲された水産物が集約されている。 漁港区域内に厚岸漁業協同組合が所在する。
③流通拠点漁港	第3種厚岸漁港	設定理由：第3種漁港である厚岸漁港は道内外からの外来船利用も多く、産地市場を有し、年間10億円以上の属地陸揚量がある。また、高度衛生管理計画に基づき天蓋施設が整備されており災害発生時に早期機能回復を図れるよう耐震

		<p>整備も行われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用（登録）漁船： 756（688）隻（R1） ・属地陸揚量： 14,497.5 トン ・属地陸揚金額： 41.40 億円 ・衛生管理計画を策定し、直轄特定漁港漁場整備事業により衛生管理対策として屋根付き岸壁整備や防災減災の観点から人工地盤整備や岸壁の耐震化等を実施している。 ・BCP策定済。
④生産拠点漁港	第1種 床潭漁港	<p>設定理由：コンブ等の生産基地として中核的な役割を担っており、登録漁船数が50隻以上ある。また耐震整備による災害時の早期機能回復が計画されている。</p> <p>■床潭漁港</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用（登録）漁船： 178（196）隻（R1） ・属地陸揚量： 2511.2 トン ・属地陸揚金額： 8.90 億円 ・コンブ漁業、刺し網漁業を主体とする。 ・荒天時、漁船避難場所となっている。
⑤輸出拠点漁港	第3種 厚岸漁港	<p>設定理由：サンマに関して以下の要件に合致するため。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・流通拠点漁港に属する ・北海道漁連等関係機関と連携し輸出推進を検討予定 ・漁港の陸揚量5,000 t 以上

(令和元年)

圏域の属地陸揚量	17,009トン
圏域の総漁港数	2漁港
圏域で水産物の水揚実績がある港湾数	0港湾

圏域の登録漁船隻数	884隻
圏域内での輸出取扱量	0トン

⑥「養殖生産拠点地域」について

釧路厚岸圏域内では、厚岸町の厚岸湖及び厚岸湾においてカキ・コンブ等の養殖業が営まれており厚岸漁港を陸揚漁港とする釧路厚岸養殖生産拠点地域が含まれている。

厚岸産カキはブランドカキとして広く道内外に流通している。

当該圏域を含む養殖生産拠点地域名	釧路厚岸養殖生産拠点地域
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における 主要対象魚種	カキ
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における 魚種別生産量（収穫量）（トン）	1,150.1ト
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における 魚種別海面養殖業産出額（百万円）	799百万円

2. 圏域における水産基盤整備の基本方針

(1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

①拠点漁港等の生産・流通機能の強化

・生産・流通機能の強化

厚岸漁港（流通拠点漁港）では、危害要因を排除し、衛生管理体制を向上させるために屋根付き岸壁が整備された。

また、総合的管理体制の確立については、関係者の衛生管理意識の向上や施設の効果的運用を図るためにソフト施策を講じていく必要があることから、地元のニーズや水産業を取り巻く当圏域の情勢を勘案しながら検討を進める。

・輸出促進への対応

圏域内の漁港施設等について、衛生基準等に対応し輸出を促進するため、衛生管理された高品質な水産物の流通増大及び鮮度保持対策を進める必要がある。

②養殖生産拠点の形成

圏域内において養殖生産拠点漁港である厚岸漁港の施設整備が進められており、今後、港内静穏の維持や災害時の早期機能回復に向けた防災・減災対策の整備が計画されている。漁港施設の整備を推進し、防災機能の強化や安全性の向上による養殖生産拠点の機能強化を図る。

(2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

①環境変化に適応した漁場生産力の強化

当圏域の主要魚種である回遊性魚種のサンマは、海洋環境の変化等により近年記録的不漁が続いている状況にあり、地域経済に与える影響が大きく、地域水産業不安定化の一因となっている。

一方、資源管理や漁場の整備等により地区の主要な地先資源であるカレイ類、ツブ、タコ類の漁獲量は安定傾向にあることから、海洋環境の変化等による影響を踏まえて沖合にはヤナギダコの産卵環境のほか、魚礁の造成により資源管理等の取組が行われているカレイ類等の育成・生息環境づくりを行い、水産物の生活史に配慮し環境変化に対応した漁業生産力の強化を図る。

②災害リスクへの対応力強化

日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震など大規模地震・津波の発生が切迫し、また台風・低気圧災害の頻発化・激甚化による漁港関係施設の被害が増大傾向となる中で、陸揚げから流通に至る地域水産業の安全安心の確保と、被災後の早期再開を可能とする対策を講じる。

(3) 「海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上

①「海業」による漁村の活性化

圏域内では道内有数の売り上げ額を誇る厚岸漁業協同組合直売店が営まれており、観光客利用、通信販売を含め厚岸産の水産物普及・宣伝に貢献していることから、引き続き既存の取り組みを継続・発展させることで交流人口の増や水産物の付加価値化による所得向上を目指す。

②地域の水産業を支える多様な人材の活躍

水産業に従事する多様な担い手による様々な活動が支障なく継続できるよう適宜対策の検討を進めていく。

3. 目標達成のための具体的な施策

(1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

①拠点漁港等の生産・流通機能の強化

地区名	主要対策	事業名	漁港・漁場名	種別	流通拠点
厚岸	流通機能強化	直轄特定漁港漁場整備	厚岸漁港	第3種	○

流通拠点漁港である厚岸漁港については、直轄特定漁港漁場整備事業による施設整備が進められており、令和2年度には天蓋施設が完成し衛生管理対策が講じられた中で供用が開始されている。今後、ソフト対策も含め衛生管理の向上による高品質水産物の供給体制を構築するとともに、輸出促進について検討を進めていく。

②養殖生産拠点の形成

地区名	主要対策	事業名	漁港・漁場名	種別	流通拠点
厚岸	養殖拠点	直轄特定漁港漁場整備	厚岸漁港	第3種	○

厚岸漁港において航路などの水域施設整備により安全で効率的な港内航行が可能となり、カキ・コンブ等の養殖業においても円滑な施設利用が見込まれる

(2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

①環境変化に適応した漁場生産力の強化

地区名	主要対策	事業名
北海道太平洋東部	環境変化、資源管理	水産環境整備事業
厚岸町	藻場・干潟	水産多面的機能発揮対策

沖合に地区の主要な水産物の一つであるタコ類の産卵基質を造成するほか、成長段階に応じ深淺移動するカレイ類産卵親魚の良好な生育環境を創出する魚礁を設置する。また、魚礁の設置によりソウハチヤクログシラガレイ、種苗放流を行っているマツカワを含むカレイ類やタコ類、ホッケ、タラ、

スケトウダラの生息の場づくりを行い、これら魚類の生活史を考慮した沿岸から沖合までの一体的な整備により、水産資源の回復・増大を図り、地域の漁業生産力を強化する。

②災害リスクへの対応力強化

地区名	主要対策	事業名	漁港・港湾名	種別	流通拠点
厚岸	早期再開	直轄特定漁港漁場整備	厚岸漁港	第3種	○

地震や津波などの災害発生後も速やかに水産業の再開が可能となるよう、係留施設の耐震化を進め津波漂流物対策施設を整備するなど防災対策を講じる。

また、係留施設の嵩上げ整備による高潮被害防止対策を進め、漁港施設の保護と利用者の安全確保安心利用を図る。

(3) 「海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上

①「海業」による漁村の活性化

厚岸漁港周辺に厚岸漁業協同組合の直売所が設けられており、圏域外からも多くの購入客が訪れるほか、通信販売にも力を注いでおり地域の魅力発信に大きく寄与している。これらの取り組みを継続し交流人口の増や水産物の付加価値化による所得向上を目指す。

また、現在、具体的な施策は計画されていないが、漁港機能の集約・分担の可能性の模索や漁港の「海業」への活用等、既存ストックの有効活用について関係者と検討する。

②地域の水産業を支える多様な人材の活躍

当圏域では、養殖カキの選別作業やカキ剥き、コンブ干しなどの作業に家族総出で当たるなど、女性や高齢者、若年層の従事者も多い。また漁業協同組合の女性部や青年部では漁港清掃などの地域活動も盛んに行われている。

今後、高齢化など年齢階層の変遷が迫る中で、これらの活動に支障が生じる懸念もあることから状況に応じた対策の検討が必要となる。

4. 環境への配慮事項

- ・漁港内の航行に必須である標識灯について、小型太陽光パネルで電力供給できる仕様に順次更新している。
- ・漁業者が漁船の更新や機関換装をする際には、「競争力強化機器導入事業」や「水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業」を活用し、操業経費の削減を図っている。

5. 水産物流通圏域図

別添のとおり

北海道釧路総合振興局水産物流通圏域図

釧路西部圏域 流通拠点（一般）型

流通拠点：白糠漁港（第2種）
 圏域総陸揚量：3,704.0 t
 圏域総陸揚金額：18.7億円
 漁港3港、港湾1港

釧路中部圏域 流通拠点（養殖・採貝業）型

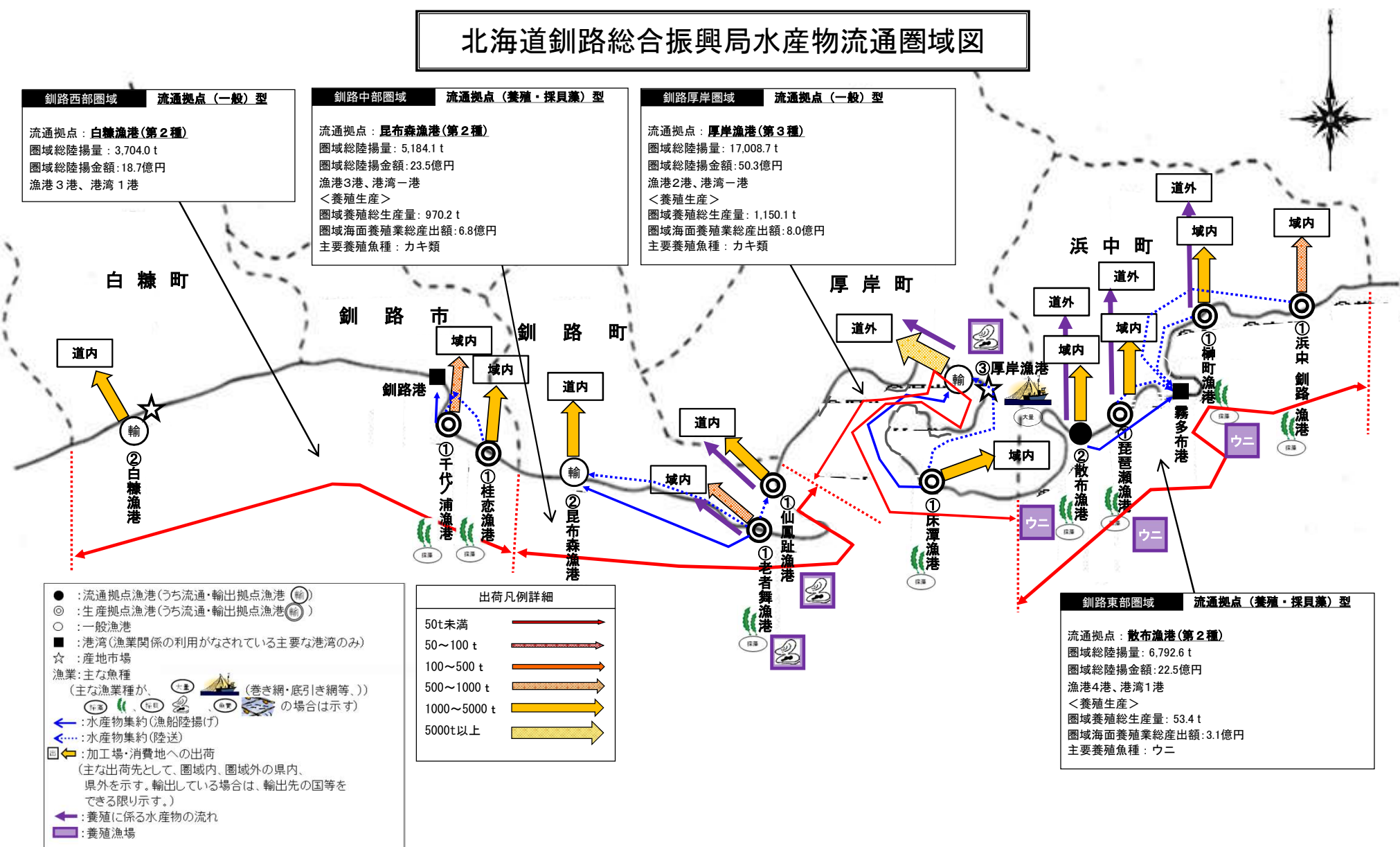
流通拠点：昆布森漁港（第2種）
 圏域総陸揚量：5,184.1 t
 圏域総陸揚金額：23.5億円
 漁港3港、港湾1港
 <養殖生産>
 圏域養殖総生産量：970.2 t
 圏域海面養殖業総産出額：6.8億円
 主要養殖魚種：力キ類

釧路厚岸圏域 流通拠点（一般）型

流通拠点：厚岸漁港（第3種）
 圏域総陸揚量：17,008.7 t
 圏域総陸揚金額：50.3億円
 漁港2港、港湾1港
 <養殖生産>
 圏域養殖総生産量：1,150.1 t
 圏域海面養殖業総産出額：8.0億円
 主要養殖魚種：力キ類

釧路東部圏域 流通拠点（養殖・採貝業）型

流通拠点：散布漁港（第2種）
 圏域総陸揚量：6,792.6 t
 圏域総陸揚金額：22.5億円
 漁港4港、港湾1港
 <養殖生産>
 圏域養殖総生産量：53.4 t
 圏域海面養殖業総産出額：3.1億円
 主要養殖魚種：ウニ



- ：流通拠点漁港（うち流通・輸出拠点漁港（輸））
- ◎：生産拠点漁港（うち流通・輸出拠点漁港（輸））
- ：一般漁港
- ：港湾（漁業関係の利用がなされている主要な港湾のみ）
- ☆：産地市場
- 漁業：主な魚種
 （主な漁業種が、（巻き網・底引き網等、）
 の場合は示す）
- ←：水産物集約（漁船陸揚げ）
- ⋯：水産物集約（陸送）
- ⇄：加工場・消費地への出荷
 （主な出荷先として、圏域内、圏域外の県内、
 県外を示す。輸出している場合は、輸出先の国等を
 できる限り示す。）
- ←：養殖に係る水産物の流れ
- ：養殖漁場

出荷凡例詳細

50t未満	
50～100 t	
100～500 t	
500～1000 t	
1000～5000 t	
5000t以上	

